

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		内容 (1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他			
2009	(1) (2) (3) (4)	(1)予防接種が任意となっている疾病・ワクチンをすべて必須・定期接種としてほしい (2)出生届提出時に接種スケジュール日時・場所を具体的に実施側で策定してほしい (3)母子手帳発行時に資料をつける、出産した産院での情報提供、出生届提出時に接種スケジュール日時・場所を具体的に通知してほしい (4)定期、任意にかかわらず、乳児・小児対象の予防接種費用は全て無料化してほしい。1回あたりの費用が高額な上に、3～4回の接種が必要なものがあり、負担が非常に大きい。任意の接種は敬遠がちになってしまう。そのせいで、本来なら防げるはずの重篤な病気にかかり、死亡・障害が残るケースがあるかもしれない。 少子対策を考えるなら、子供の健康を守るために、最低限という受身的な施策ではなく、積極的な展開が必要。	2	1	3
2010	(1) (4)	(1) ・1つ目 小児用の下記ワクチンについて、定期接種に追加してほしい。 ・小児用ヒブワクチン ・小児用肺炎球菌ワクチン 子供が上記による髄膜炎等にかかった場合の後遺症が心配。 多くの海外では定期接種のワクチンであり、日本も定期接種にすべきと思います。 ・2つ目 MRを1歳前でも無料で接種させてほしい。 子供が10カ月で保育園に入園したので1歳を前にMRを接種したかったが、1歳前での接種は自費だった。1歳前でもMRIは接種可能なのに なぜ1歳にならなければ公費で接種できないのか、理由がわかりません。 ・3つ目 ポリオ生ワクチンを不活化ワクチンにしてほしい ポリオ生ワクチンによる後遺症と二次感染が心配。 早く不活化ワクチンにしてほしい。 (4)現在任意接種である下記ワクチンの費用助成もしくは無料化してほしい。 ・小児用ヒブワクチン ・小児用肺炎球菌ワクチン ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンを全て個人負担で接種したので、かなりの家計負担になりました。大事なワクチンなので一日も早く一部助成もしくは無料化してほしい。 以上	2	1	3
2011	(2) (3)	(別紙1に掲載)	2	1	3
2012	(7)	疾病予防の点から、現在予防接種の対象となっていないワクチンでもより多くの人々が接種を受けることができるような制度にしてほしいと思います。	3	1	3
2013	(4)	無料じゃないというだけで予防接種を受けない人がいるのでどうかと思います。	3	1	3
2014	(2) (4)	(2)保育園に登園している子は保育園で集団接種してほしい。(水ぼうそう、おたふく、インフルエンザ) (4)子供手当でもよいが、子供のために100%使用されるわけでもないのに注射を無料または一部負担にしてもらいたい。	3	1	3
2015	(2) (4)	(2)(4) 昨年の新型インフルエンザワクチンについての対応の遅さについて、本当に予防するつもりがあるのならば、集団接種にする方法を早期に決めるべきでした。新しく対象となったヒブや肺炎球菌などについても、本当に予防するつもりがあるのでしょうか？ 自己負担かつ流通制限のかかっているワクチンでは子供を守りたくても守れないのが実態です。インフルエンザやおたふく、水痘など毎年流行っている病気などもそうですが、公費負担、集団接種にしてこそ予防できるものだと思います。子供手当を配るお金があるのならば、そのお金を予防接種事業にあててください！ ヒブ・肺炎球菌などは3～4回接種となり費用もかかります。インフルエンザについても毎年2回接種で、我が家は子供が3人なので合計6回分+両親2回と、かなり高額です。1シーズンで2万円もかかるので、公費で受けられるようにしてほしいです。	3	1	3
2016	(1) (3) (4)	(1)昨今新しいウイルスや感染症が出てきている中で、どの予防接種を優先させるかについては見直しが必要だと思います。 他の先進国に比べ、日本は強制で受けられる予防接種の数が少なすぎます。 現在は夫婦共働きの家庭が増えて、保育園などの集団生活を強いられる乳幼児が多く、特に低月齢のうちから家庭外に預けられる乳幼児も増えています。 そんな中、特に流行りやすいウイルス、かかると重症になると考えられる感染症を防ぐ予防接種は任意ではなく強制で、国の負担で受けられるようにするべきだと思います。 (3)任意の予防接種に関しては、種類も多く、すべて受けるには経済的な負担がかなり大きいです。そこで選択するにしても、どれが最優先で受けるべきものかが分かりません。医師にしても、任意で受けるものに関しては、必ず受けるように薦めにくいと思います。 親が自分の子に必要な予防接種を受けられるような、分かりやすく具体的な情報提供を望みます。 具体的な、というのは個々の生活習慣に照らし合わせて、接種を検討できるような、という意味です。 (4)接種費用の負担は一般家庭にはかなり大きいものです。 1歳未満で接種する場合は、4回接種が必要になるワクチンもあるので、1種類の予防接種で、計4万円近くかかることとなります。これを2種受けると8万円！かなり大きな出費です。 経済的理由から任意の予防接種を受けさせていなかったある家庭では、3人の子供全員が水疱瘡に感染しました、保育園は通園できないので、母親も仕事を長期間休むことになり、さらに収入が減るといった悪循環のケースを実際に見聞しました。 このようなことがないよう、地方の治自体にも負担を求めるとして感染者を減らす努力をしてほしいと思います。	3	1	3

番号	項目	内容 (1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他	年齢	性別	職業
2017	(1)	日本のワクチン行政は遅れすぎています。子供が病気になる前に元気でいて欲しいというのが親の願いです。ワクチンで防げる疾患はワクチンで予防するのが、世界のスタンダードではないでしょうか？ それでも、防げる病気は限られています。任意、定期と分ける事により、守れるはずの多くの命が失われています。すべてのワクチンを定期接種にして下さい。 知らなかったでは済まされないと自分を責める親が一人でも減るよう、多くの子供の病気を減らし、命を守るよう、政策による犠牲者の子供を増やさないようお願いいたします。 また、このような意見を募っているのなら、もっと多くの親がこのHPの存在を知る事ができるようきちんと告知すべきではないでしょうか。	3	1	3
2018	(1)	私は21年9月に娘を出産した世田谷区に住む母親です。予防接種は任意も含め積極的に受けさせています。こちらは「KNOW！ VPD」のサイトで知りました。まず最初に受けられるB型肝炎を希望しましたが、近所の医院では「母親がキャリアじゃないのよ」といわれ受けなくていいといわれてしまいました。しかし調べるうち、性交渉や医療行為などで感染する可能性があることを知り、病院をかねて予約を取りました。ヒブワクチンは出産前からいくつもの病院に電話し、やっと予約を取りつきましたが品薄だからか7000円/回～13000円/回まで金額の開きがあり、足元を見られていた気がしました。小児用肺炎球菌は今年の2月末に発売になったので、先日受けましたがその前はヒブだけで髄膜炎を予防できるのだと思ってしていました。 また、ポリオに関しては、私は昭和51年生まれなのですが、区からの案内に「昭和50年～52年生まれの親は抗体が弱く便から稀に感染することがあるので手をよく洗いなさい」とありました。お母さん仲間で「親もワクチン接種をしないと感染するかもしれない」と噂になり、またかかった場合どうなるのかわからず不安でした。医院に問い合わせたところ「団体接種しかできないから普通の病院では無理」「別にしなくても大丈夫、なぜそんなに心配するのか」といわれ、区の問い合わせ先では「その頃のポリオワクチンは品質が悪く2回接種していても抗体ができていない」と、心配をあおる説明ばかりでした。自分で調べるうち「(財)日本ポリオ研究所」に行き当たり、こちらではじめてその当時の三種混合ワクチンによる百日咳発症で死亡者が出て、ワクチンボイコットが起こったことが理由であることを知りました。自分の母子手帳を確認すると、私はポリオを2回接種していましたが、水痘、百日咳を接種しておらず、感染・発症していました。百日咳で咳がとまらず我慢しないと親に怒られたこと、水痘で夏休み中ずっとかゆくて外出ができなかったことを思い出しました。顔に掻き傷も残っています。 以上少ない経験談ですが、要望としては、どの病院や団体でも安心できる説明と対応がほしい、また海外で今後活躍するかもしれない子供たちのために、世界基準で必要なワクチンを日本全国に浸透させてほしい、と願っています。	3	1	3
2019	(3)	私は7カ月の子を持つ母親です。 子供が産まれて、初めて予防接種について真剣に考えるようになりました。 予防接種に関する情報提供のあり方についてですが、意見募集の告知が少なすぎると思います。私は今回の意見募集を偶然新聞の健康関係の記事で見つけましたが、育児関連のサイト等でも見たことがありません。広く意見を求めるのであれば、もっと告知・募集を行うべきではないでしょうか。これでは本当に意見を求めているのか疑問に思います。 具体的な告知方法としては、育児・子育て関連の情報サイト(ミルクやおむつを扱う会社が出しているサイト等)や、各自治体の育児・子育て関係部署へ情報を提供し、意見募集を行っていただきたいです。	3	1	3
2020	(1) (4)	生後11ヶ月の男の子を持つ母親です。 ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンを任意接種でなく公費負担での定期接種として下さるようお願いいたします。どちらも髄膜炎を引き起こす恐ろしい病気で、欧米では既に義務として公費負担がなされています。日本は、先進国の中ではワクチンの利用が著しく遅れております。 よって、一部の子どもの間だけの接種となっています。 また、実費負担額が非常に高く、子を持つ家庭の大きな負担となっています。 特に、ご存知の通りヒブワクチンは知名度が一気に上がったのに比べて、ワクチン確保量が非常に少なく、どの診療所でも接種本数が制限されており、早くて数ヶ月、遅いと半年以上待つのが当たり前になっています。 私も、子どもに受けさせるために世田谷区中の病院を、リストを見ながら片っ端に当たり、家からバスで30分の遠い診療所までようやく予約することができ、接種に至りました。 この状況を鑑み、是非、ご検討頂ければと思います。 また、実際に予防接種を公費負担した場合と、任意接種に任せ、その後、実際に病気ににかかった者の医療費を保険で負担するのでは、国の負担額は予防接種を推進したほうがはるかに安くなるという試算の元、欧米では公費負担がなされているとのこと。どうぞ宜しくお願い致します	3	1	3
2021	(1)	①ヒブワクチン、小児肺炎球菌ワクチンの定期接種化を強く希望します。 ヒブワクチンも、小児肺炎球菌ワクチンも、任意でありながら多くの保護者が、子どもの命・健康には代えられないと接種を希望しています。しかしながら、最も効果的とされる生後2～3ヶ月から開始すれば両方で合計7～8万円の出費です。実際、私の周囲には、少し時期を遅らせ、接種回数を減らす人もいます。 経済状況が子どもの命・健康を左右する状況を一刻も早く解消するため、公費による定期接種化を切望します。 ②不活化ポリオワクチンの導入を強く希望します。 国内で年間4～5人がワクチン由来のポリオを発症していること、及び、先進諸国では不活化ワクチンが主流になっていることを知り、心底驚きました。まずは、輸入ワクチンの早期承認を求めます。国内メーカーが4種混合を開発中とのニュースも見ましたが、単独でのニーズも高いはず。きることから、すぐはじめて下さい。 ③5～6種混合ワクチンの定期接種化を望みます。 これだけ様々なワクチンを、個別に接種するのは親にとっても、子どもにとっても、相当な負担になっています。スケジュールを組むこと自体が大変な上、子どもの体調不良で、その組み直しを迫られることも少なくなく、私自身、この1年間で何度予防接種に足を運んだかわかりません	3	1	3

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		<p>内容</p> <p>(1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他</p>			
2022	(4)	<p>娘に受けさせましたがとにかく高いです(Hib、肺炎球菌ワクチン)。 小さいうちにうけると回数も多いし補助が全くなく、家計にかなりの負担です。 他の諸国に比べても、比較にならないです。 必須にすると問題があるならば、任意のままでも結構ですから、せめて、保険が利くようにしてほしいです。 その後、検討を重ねて、必須の全額補償にするとか段階を踏んででもいいですから、今の状態を改善してほしいです。 娘が子宮頸がんワクチンの対象の年齢範囲にも入ってくる頃には対応しているよう、期待しています。</p>	3	1	3
2023	(1)	<p>日本国民として生まれた全ての子どもたちに、等しくワクチンで防げる病気のためのワクチンをうってあげられるように、ただちに、政府として全てのワクチンの定期接種化をしてください。 任意接種のもとに、医療格差が生じることはあってはなりません。 子供の命を守るため、財政の問題を考えるなら、ワクチンをうけずに命をおとしたり、重度の障害をもった子供たちにかかるコストを考えてください。できないなら、子供手当の一部を使うなり、たばこをもっと増税して使ってください。 海外であたりまえに使われているワクチンの認可のスピードをあげてください。 ぜひ、迅速な対応をお願い致します。</p>	3	1	3
2024		<p>現在、任意接種となっているB型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、おたふく風邪、みずぼうそう、インフルエンザのワクチンについては、定期接種とし、費用の公費負担を希望します。全てをしっかりと接種すると10万円を超える負担になります。これは決して安い金額ではありません。経済的余裕のある家庭の子どもは病気にならないですむという、経済格差が健康格差を引き起こし、それを是認する社会になることを危惧します。6月から子ども手当の支給が始まりますが、使途が明確でないため予防接種に使う家庭はあまり多くないと思いますし、国民の健康を守るという国の意思が明確になりません。そのため、予防接種の費用負担をすることで、小さな子供のいる家庭の家計負担を少なくすると同時に、日本の未来を支える子どもたちを守る姿勢を出していただくことを希望します。</p> <p>また、任意接種の予防接種については自治体からお知らせが来ません。母子健康手帳にも十分な記載がありません。おたふくや水ぼうそうにいたっては「かかったことのある病気」という欄に病気の名前がかかれており、「罹患するもの」と誤解を招く表現になっています。任意接種なので自治体は広報の義務が無いと思いますが、そのため、病気そのものやその病気の後遺症について(おたふくの難聴など)を知っている人しか接種していません。親の情報の格差が子どもの健康格差になってしまうのは、未来ある子どもたちにとって不幸なことです。子育て支援といわれ始めてしばらく経ちますが、生まれてきた全ての子どもが健康に生きる権利を持っており、本当の意味でその権利を守る社会システムが出来上がって初めて、子育てのしやすい社会になると考えます。繰り返しになりますが、任意の予防接種について定期接種化をし、個人の費用負担減と、自治体からの広報を充実したものにしてください。</p>	3	1	3
2025	(1)	<p>① ポリオワクチンの生ワクチンから不活化ワクチンへの転換 ワクチン関連麻痺が現実に発生発症しているため、早急に不活化ワクチンの導入をして欲しい。非摂取者本人の発症、及び二次感染は数百万に1回程度と、発症の確率は非常に低い、ゼロでない限り、生ワクチンの使用は控えるべき。発症している現実を知りつつ使用を続けるのは、人命を軽視している行為だと思います。ポリオの自然感染が撲滅された国の多くは不活化ワクチンを使用しています。これからの開発・承認では非常に時間がかかってしまうため、世界で実績のあるワクチンを輸入してでも不活化ワクチンへの早急な転換を希望します。 現在の情報化社会では、二次感染等のニュースは直ぐに知ることができるため、多くの乳幼児の母親は恐怖・ストレスを感じています。健康被害に対する救済制度の整備は大切ですが、それ以前に健康被害を発生させないことの方が大事であり、そこに重点を置くべきだと思います。</p> <p>② ヒブ・肺炎球菌等の定期摂取化 多くの保護者が摂取を希望しており、また、一部の自治体でも費用の助成をするほど必要性が認められています。これらを原因とする病気の子どもはかなり多く存在しているため、その治療にかかる医療費を考慮しても予防接種のコストの方が低く抑えられるのではないのでしょうか。</p> <p>③ こども手当で財源の有効活用 手当として各家庭に配布するのではなく、現行予防接種制度の整備(ポリオワクチンの不活化への転換等)、必要ワクチンの定期摂取化のためのコストとして使用した方が良いと思います。実際、こども手当を任意の予防接種費用にあてる家庭は多いと思います。</p>	3	1	3
2026	(4)	<p>現在、日本は海外と比べて公費で接種できるワクチンの種類が少ないということを聞きました。国民皆保険という素晴らしい制度は、世界に誇るべきものだと感じますが、予防できる疾患においては、残念ながら必ずしも先進国でないことに驚いています。 予防できる疾患であれば、収入や情報量の違いで差が付いてしまうことの無いように公費で接種できるような制度を整備すべきであると考えます。 肺炎球菌や子宮頸がんのワクチンがすべての必要とされる国民に行き渡ることを願います。</p>	3	1	3

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
2027	(1) (3)	<p>(1) ワクチンで防げる病気はすべてワクチンで防ぐべきという国としての決断をお願いしたいと思います。ワクチンで防げる病気には限りがあるためです。とくに少子高齢化社会である日本では、何よりもまず数少ない子どもの命(国にとっては将来的に重要な資源)を守ること(無駄に亡くさないこと)が重要と考えます。</p> <p>そのためには、予防接種を国家にとってはいわばインフラの1つとしてとらえられないかと思えます。</p> <p>水道や電気、ガスが生活の基盤として利用できるように、予防接種は健康に生活できるように国から平等に享受できるサービスの1つでなければ、親や医師の都合によってワクチンを接種する子/接種しない子がでてきてしまい、予防医療の本来の意味をなさないのでないでしょうか。</p> <p>(3) 現在の日本の予防接種が定期接種と任意接種にわかれているのは、制度上のことであり、医学的にはワクチンで防げる病気としては何ら変わりはありません。しかし「任意接種」という言葉ゆえに、保護者の方は任意接種を「決められたものでないワクチン」ととらえられており、はじめから偏見をもって知識を収集されているのが現状です。このままではせっかくワクチンがあっても、正しく理解されないままに接種されないワクチンばかりになってしまうと危惧しております。</p> <p>私自身も、そのような偏見からみずぼうそうのワクチンを接種していなかったために、大人になってからみずぼうそうにかかり、私からうってしまつた兄弟が大変な目に遭いました。もしあのときワクチンに偏見がなければ、あのようなつらい思いはしなくてすんだと思うと、情報提供のあり方にはまだまだ改善の余地があると思えます。</p> <p>アメリカでは、各ワクチンについて病気のこと、ワクチンの効果、副反応が記されている「vaccine information statement」というリーフレットを医師が保護者に渡すのは「federal law」となっているようです。日本でも定期、任意の差なくこのように統一された規格で各ワクチンに関する情報提供がしかるべきところからされることが望ましいと思えます。</p> <p>さらには、ワクチンによって差が出ないように、すべてのワクチンを「定期」とするべきと考えます。</p>	3	1	3
2028	(1) (3)	<p>(1) ヒブ、肺炎球菌ワクチンを定期接種にして頂きたいです。</p> <p>また、そうすると同時にヒブワクチンの安定供給を確立して下さい。</p> <p>細菌性髄膜炎の怖さを知り、我が子に予防接種をしようと思いましたが、かかりつけ医では1年待ち、他の病院を10軒近くあたっています。</p> <p>また、接種費用の高さに早期の接種を迷う友人もいます。</p> <p>この状況はおかしいと思えます。</p> <p>(3) 子供の予防接種について、保健センター、小児科等を通じて誰にでも分かり易く情報提供して頂きたいです。任意接種のものについては、特に情報が少なく戸惑っています。</p>	3	1	3
2029	(3) (4)	<p>我が家には6歳と3歳の女の子がいます。最近になり、ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチンが導入され、3歳の子は接種しました。ワクチンの接種費用の高さにも驚きましたが、予防接種をしていない6歳の子が、小さいときにこの病気にかからなくて良かったと思えます。</p> <p>ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチンも、たまたまインターネットで見かけて知りました。日本以外の諸外国では当たり前のワクチンみたいですが、まだ他にも認められていないワクチンがあったら、すぐにも認めるよう、接種費用や情報提供もきちんと検討してもらいたいと思えます。</p> <p>それにしても、将来接種するであろう、子宮頸がんワクチンが3回接種で2人で10万円近くになることは、絶対にありえないことだと思えます。</p>	3	1	3
2030	(1)	<p>B型肝炎ワクチンを予防接種法に基づく定期接種の対象とするよう検討されることを求めるものです。</p> <p>平成21年6月に開催された第45回日本肝臓学会総会で、「ユニバーサルHBワクチン: 是か非か?」と題したワークショップが持たれ、内容が「肝臓」50巻10号に「特別寄稿」という形で掲載されています。</p> <p>J-STAGEオンラインサービス http://www.jstage.jst.go.jp/browse/kanzo/50/10/_contents/-char/ja/</p> <p>以下、内容の一部を引用します。</p> <p>【発生数】平成元年以来の母子感染予防対策によってB型肝炎ウイルス(HBV)キャリアが激減しつつありますが、接種時期が現在のuniversal vaccination(UV)に対して遅いこともあり、年間500人近い乳児がキャリア化しているものと想定されています。また、キャリア化していない者も含めた新規感染者は、年間5000人以上と想定されています。</p> <p>【期待される効果】既に1990年代頃からB型肝炎(特にB型急性肝炎)が性感染症(STD)という前提で扱われている状況もふまえて、UVが急性肝炎および欧米型HBVにみられる(成人に感染した場合の)キャリア化の予防にも繋がる可能性が見込まれています。</p> <p>【各国の状況】「WHOの推奨により、2007年までに世界171カ国でHBVに対するUVが導入されている」と述べられています。肝臓学会が実施したアンケート調査では、UVに反対する主な理由として挙げられているのが「費用対効果」ですが、既に地球上の大半の国で導入されている中であえて行わない理由としては疑問です。</p> <p>【結語】追加発言という形で、次のように締めくくられています。「天然痘、ポリオ、麻疹に次ぐのは発がんリスクが明確なそして劇症肝炎による死亡が予測されるB型肝炎であることは明白である。それはHB Vaccineにより予防法が完成しているからでもある。」「HBV感染は最高裁でも判決され(た)ごとく後世に責任を追及される事例ともなりうる。世界中の国がHBV Universal Vaccinationで地球上よりHBV感染を撲滅しようとしている今、日本はこれを無視して良いであろうか。注目を喚起したい。」</p> <p>HPVワクチンを「子宮頸がん予防ワクチン」と称して公費負担のもとで接種が行われるのであれば、それ以前にHBVワクチンを「肝がんワクチン」とも称して接種されることが妥当と考えられます。</p> <p>また、「最高裁でも判決され」は、「B型肝炎訴訟」最高裁判決(平成18年6月16日)を指すものであり、集団予防接種における注射器の使い回しによりHBVに感染した被害が認定されています。この世代からの二次感染、三次感染がワクチンで予防できる時代になっても母子感染予防を除いて放置され続けており、将来的に行政の不作为とされる可能性も少なからずあります。</p>	3	2	3

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		(1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他			
2031	(1) (3) (4)	(1)過去の副反応発生による世論の反対により、国が積極的な対策から逃げてきた事は、様々な理由付けがあるとしても、現時点で比較すべき先進諸外国との差で明らかである。今回のような制度見直しの機会を好機と捉え、WHO勧告に則ったレベルまで対象のワクチンを広げる事が本来の姿であると考えて。 (3)WHO勧告に則ったレベルまで対象ワクチンを広げた場合でも、国民の知識レベルが向上しないと、誤解を招くだけではなく、以前のようなワクチン有害説の世論が形成され、また予防接種行政が退化してしまう可能性があるため、情報提供や啓蒙活動は非常に重要である。特に、副反応のリスクに対して予防接種を受けない場合のリスクや、個人の問題だけでなく、社会全体として高い摂取率を維持する事の重要性、万が一の場合の被害救済制度について、妊娠初期から十分啓蒙していく必要があると考えて。積極的に、かつ、長期間地道にお願いしたい。 (4)当然、WHO勧告まで対応する場合でも、1類疾病の定期接種対象として、国や地方が責任を持って実施する必要がある。国民の健康を守るためであり、当たり前の話。	3	2	3
2032	(1)	一刻も早く、すべての子どもの任意接種ワクチンの定期接種化が必要です。そもそも、任意接種のワクチンが、任意という言葉によって、やらなくてもいいものと誤解を与えます。 この国を支えるのは、これからの子供達です。貧しい家に生まれた子供であって、ワクチンが受けられないような事を放置してはいけません。この分野に、医療格差があってはなりません。 ぜひ、ワクチンで防げる病気を、防げるように、子供手当のお金を優先的に使うなどしてください。 日本の製薬メーカーも、ワクチンの生産ができるように政府がバックアップするようにすることも必要です。それによって、大量生産によるコストダウンや、他国に頼らない供給体制の確立につながります。	3	2	3
2033	(1)	① ポリオ生ワクチンへの不満 実際に発症してしまう例が存在するのであればそれはワクチンとして危険すぎるし、ワクチンを受けた人間からさらに感染する可能性のある大変危険なものであると思う。非活化ワクチンへの早急な切り替えを求めたい。 ② ヒブワクチンについて 早急に定期接種化を望みたい。	3	2	3
2034	(1)	私の息子は2004年9月に細菌性髄膜炎に罹患しました。細菌性髄膜炎はワクチンで予防することができる疾病です。細菌性髄膜炎に罹患した経験を持つ当事者・家族として、ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの定期接種化を強く望みます。 そして、細菌性髄膜炎関連ワクチンに限らず、今国内で発売されているもの、発売されていないものも含めて、新たなワクチンについて逐次、定期接種化の是非を検討し予防接種法に位置づけられる仕組みを構築してください。 ワクチンで防ぐことのできる疾病を定期接種化し防ぐのか、定期接種化せず結果として防がないのか、いずれも積極的に判断すべきです。現在は、「定期接種化する」との決断を下していないだけであり、「定期接種化しない」と判断しているものは少ないのではないのでしょうか。 定期接種化されれば防げた可能性の高い疾患に罹患することは、「定期接種化しない」との判断のもとに生じる被害者です。この被害者の存在に目を向け、定期接種化の必要性について議論し判断いただきたいです。	3	2	3
2035		子供を持つまで予防接種に関心がありませんでした。なぜならそういう教育も受けた覚えがありませんし、保健所・病院での母親学級等で予防接種についての詳しい説明を受けた覚えもありません。 このためHibワクチンのこともネット上の書き込みで打たないことのリスクを知り、かかりつけの病院へ予約してみたものの実際に打てるのは1歳を過ぎてからになってしまいました。 なぜ妊娠中にワクチンについての資料を配付しないのでしょうか。妊婦検診の時に待ち時間に読む時間はあっても、産まれてから一番忙しく新生児の世話をしている母親に読めというのはタイミングが悪いのではないのでしょうか。 任意接種という言い方にも非常に問題があります。受け取る側のイメージが「打たなくても良い」に聞こえるからです。私の住む草加市ではHibが1回7000×4=28,000円肺炎球菌が10,000×4=40,000円合計68,000円と言われました。リスクをよく解っていないから経済的に負担になるので打たない、解っていても打てないです。 この他にも麻疹・水疱瘡も任意接種だなんて驚きです。 ワクチンを接種しておこる副反応のリスクより、接種をしないリスクの方があまりにも高いではありませんか。 子ども手当よりもすべての予防接種の無料化をただちに実施すべきです。 「ワクチンを打っておけば子どもが死なずにすんだ」と一生悔やみ、嘆くことになる人がこれ以上増えるのを止められるのはあなた方だと思います。	4	1	3
2036	(4)	国内で使用できる有用なワクチンに関しては、厚労省は積極的に接種を推奨すべきと考える。特に、幼児・子供の健康に関わるワクチンに関しては、例え罹患率が低い疾患であったとしても、その後の幼児・子供の人生及び両親の生活に対する影響を考えると、接種を義務化すべきであり、厚労省は公費にて接種できる制度を早急に整備すべきと考える。そのために、少くとも納税額が高くなっても構わない。日本における医療の充実を戦略的に図り、魅力ある国作りを実施すべきと考える。出向のため、海外に家族を帯同した同僚から聞いた話ではあるが、日本では接種できないワクチンがあったため、小学校や幼稚園の入学を断られた。このような事態は、日本があたかも医療後進国であるかのように感じさせ、日本国民として極めて恥ずかしく、厚労省としては無策であることを露呈するものである。最近、様々な有用なワクチンが国内で使用できるようになったと聞くと、公費化に向けて迅速な対応が期待される。	4	2	3
2037	(1)	【小児用肺炎球菌ワクチンについて】 ワクチンを接種して避けられる病気があるなら、絶対に行きたい。 不幸にも病気に罹ってしまったら、悔やみきれない。 金銭的な負担が大きく、困る出来る人と出来ない人がいるのはおかしいと思う。	4	2	3
2038	(1)	【小児用肺炎球菌ワクチンについて】 後遺症の事を、子供に対して一生謝り続けなければならない。 避けられるのであれば避けなければならない。 地域差、経済格差、情報格差が無い環境は日本国政府にしか作れない。 各自治体では無理。	4	2	3

番号	項目	内容 (1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他	年齢	性別	職業
2039	(4)	個人個人の経済的負担が重い現状では、とてもわが子に予防接種ができない人が多いと思います。健康な子供たちが、安心して元気にさせるように、ワクチンの負担を国・県・地方自治体でお願いできればと考えます。医療費の抑制にもつながるでしょうし、子供手当、公立高校無償化などのこども政策ともあいまって、子供が元気な日本が築けるのではないのでしょうか？	4	2	3
2040	(1) (4)	他の国と同じように全てのワクチンは無料にするべきです。 (4) 特に小児用のワクチン:HIBと小児用肺炎球菌を直ちに無料化が必要です。よろしくお願いします。	4	2	3
2041	(1)	小児用のワクチンHIBと小児用肺炎球菌を無料化が必要です。	4	2	3
2042	(7)	(7) 子宮頸がんワクチンのあり方に不安を持っています。現在、子宮頸がんワクチンに関しては、予防接種推進に偏った報道が多く、「集団接種」や「自治体での無料化」などが大きくマスコミにとりあげられています。予防接種というのは効果(統計的にしっかりしたもの)と副反応や危険性など丁寧な説明が必要と考えます。過去の「インフルエンザ集団接種」における教訓や、タミフルの過信、新型インフルエンザへの過剰反応など、「両論併記の情報」が不足しているために起こっています。ぜひ、より多くの情報を提供し、接種を受ける「個人」が「自分の考えと意志」で決定できる環境を整えていただければと思います。 なお、「受ける権利」「受けない権利」とともに認められるべきで、「受けたい」場合の無償化も検討ください。	5	1	3
2043	(7)	病気になってからでは医療費が高つく。 予防こそが最も社会の節約になる。	5	2	3
2044	(7)	(7) 日本のすべての子供に感染症を予防できるワクチンを保険適応してほしい	5	2	3
2045	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	"子育て環境世界No.1"を目指してください。まず組織目標の設定です。 国を引っ張っていく頭脳は皆さんです。応援しています。 (4) (1):治療と違うので、予防可能なワクチンがあるものについては接種希望者に提供可能に (5) (2):検証をしっかり実施することを前提で、新しいワクチンは導入すること。たった1件、たった数件の副反応への対応で、多くの救われる命を見捨てることの無いような仕組みの構築が重要 (6) (3):行政の仕事である。しかし、情報提供が定期接種に限定される現状を根底から打破するためには、政府の関与のウエイトを取ることが必要 (7) (4):自治体(行政)の予算(接種率100%で予算オーバー?)ではなく、国家予算で実施すべき。取り組みに差があるものは国家プロジェクトで建て直しが必要 (5):(2)で述べたように、検証ができる仕組み構築のためにしっかりと人材(参加者)と組織の確立&予算の確保が必要 (6):過去通産省が国家プロジェクトでIC等の開発を推進したように、国家として日本における全てのワクチン関連メーカーを指導する必要がある。場合によっては統合や国内大手メーカーとの連携・吸収合併も必要。海外の大手ワクチンメーカーは全て巨大メーカーであり現状では目標を設定しても違和感を感じる。 (7):普天間問題と同様で、どのような問題解決が目的かを明確にしないと、批判ばかりを受けてなにも進まない。問題解決のために、検討委員会(意志決定諮問機関)が必要であり、同時に広報で広く国民の理解を得る仕組みの構築も重要である。多くの教育機関(大学等)との連携も実施し、義務教育での教育面でも推進する必要あり。また、一部大学が実施しているワクチン接種も入学の条件とするようなことを保育園・幼稚園から実施すべきである。	5	2	3
2046	(1)	平成22年4月21日に開催された予防接種部会資料3の別紙2の表中には、小児用7価肺炎球菌ワクチンが記載されていますが、「23価肺炎球菌ワクチン」が記載されていません。 すでに先進国では、標準的に接種され、高齢化する日本においてその重要性が高まっているこの23価肺炎球菌ワクチンの高齢者に対する使用について検討されていない可能性がありますので、もしそうであれば、ぜひとも検討をお願いします。	5	2	3
2047	(1)	(別紙1に掲載)	6	1	3
2048	(4)	子供が3人います。ヒブワクチン 7000 x 5回分(0才児4回、4才児1回)、肺炎球菌 9500 x 4回分(1才児2回、4才児1回、8才児1回) その他にも水ぼうそう、おたふくかぜを3人分。お金がないと子供の命を守れないのでしょうか。とても疑問です。せめて子供の命ぐらいお金が無くても平等にしたい。	3	1	4

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		<p>内容</p> <p>(1) 予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2) 予防接種事業の適正な実施の確保、(3) 予防接種に関する情報提供のあり方、(4) 接種費用の負担のあり方、(5) 予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6) ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7) その他</p>			
2049	(1)	<p>全くの素人意見になりますが、子どもを持ち、かつ妊娠中の一個人の意見としてお受けとめください。</p> <p>現在、Hib(インフルエンザ菌b型)、肺炎球菌、HPV(ヒトパピローマウイルス)、おたふくかぜ、水痘などの予防接種は、その重要性がたびたび聞かれますが、任意接種となっており、自分の子どもだけが予防接種をしていても、周囲で流行すれば結局、影響が出てしまいます。</p> <p>また、予防接種によってかなりの確率で発症を防げるのであれば、発症した場合の医療費、周囲への影響を考えた場合、明らかに予防接種費用の助成の方が長期的には経済的なのではないでしょうか。現在、任意接種ですと、7千円以上はかかるようです。正直なところ、経済的に厳しいですが、子どもが病気にかかって苦しむよりは…と一人目の子にはおたふくかぜと水痘を受けさせたところでした。それでも水痘には感染してしまいましたが、とくに高熱になることもなく、痕は残っているものの、薬を飲んで治りました。予防接種を受けていなかったら、もっと重度になっていたであろうというお話を聞いて、予防接種の必要性を痛感したところです。</p> <p>予防接種をしていても、確実ではないのはわかっていますが、少しでも子どもにつらい思いをさせたくないのが親として家族ではないでしょうか。細菌性髄膜炎や肺炎球菌など、予防接種により感染防止及び重篤化が図られるのであれば、ぜひ、任意ではなく定期接種にしていただきたいのです。</p> <p>費用について、全額無料が難しいのであれば、せめて全国一律で2千円から3千円程度に抑えていただきたいと思っています。費用については別に意見募集されていたようですが、簡単に希望を書かせていただきました。申し訳ありません。子ども手当の現物給付、なんて言葉もきかれますが、保育所は実際、ある程度の年齢になるまでは、入る子、入らない子がいると思うので、不公平かと。現金で満額給付ができないのなら、保育所ではなく、予防接種の定期接種拡大化と無料化の費用にあててほしいです。勝手な意見ばかりですが、よろしく願いいたします。</p>	3	1	4
2050	(1)	<p>① ポリオワクチンの不活性化ワクチンの導入について 生ワクチンの被害が実際おこっていることは言うまでもない。 一日も早く不活性化ワクチンの導入を行って頂きたい。</p> <p>② 子どもの予防接種をすべて無料化して頂きたい。 任意接種だと、医療機関で金額のばらつきがあるほか、1本につき、一万円以上となるものも多く高額であるために、接種を見合わせる親もいる。 (例:0歳児のプレベナー、ヒブワクチンは、半年の間に1万円×3回×2ワクチンで6万円の出費となる。) 流行しないためにもすべての子どもが予防接種を受ける必要があるため、無料化することにより、すべての子どもに予防接種が受けられる環境を整えるべきである。</p>	3	2	4
2051	(4)	<p>居住地の地方自治体で、公費助成制度が違うことがおかしい。</p> <p>予防医療は国民全員が受けることができる権利があり、国は責任があります。</p> <p>特に「ヒブワクチン」は、子育て世代にとって不安と負担となり、少子化につながります。</p> <p>また発症もどの子どもにも可能性があり、日本は後進国となっています。</p> <p>少なくとも、医師のご家庭では無認可の時代で諸外国で接種させていたということも聞いており、必要性が高いのはみんな共通です。</p> <p>受けなくても発症しなかったというのは、あくまで偶然で、可能性がある以上、守らなければなりません。</p> <p>また「子宮頸がんワクチン」は、女性＝お母さんの命を守るものです。</p> <p>男として、大切な女性たちを守り、種の保存のため、人類共通の課題に国が取り組むべきことです。</p> <p>地方自治体で国民の命を守るの荷が重すぎます。</p> <p>地方分権と声高に叫ばれておりますが、国民共通の課題は国が責任を持って対処するべきです。</p> <p>国が動かないから、人心の不安を煽るような「任意接種」認可とお茶を濁す対応は断じてとるべきではありません。</p> <p>こども手当を26,000円から20,000円と額だけの議論となっていますが、国民全員でこどもと女性の命を守り、人類の未来を守るために予算を組むべきだと思います。</p> <p>ぜひ「ヒブワクチン」「子宮頸がんワクチン」の全額助成、公費化を実現してください。</p>	4	2	4
2052	(2) (3) (4) (7)	<p>(2) 予防接種法の改正により、学校での集団接種は廃止され、すべて個人接種に移行されていますが、このたびの</p> <p>(3) 新型インフルエンザの流行により、学校での集団接種が再び提示され大変不安を感じております。以前学校で集団</p> <p>(4) 接種を長い間経験しましたが、接種時の安全な体制づくり、接種前の健康状態の把握、接種後の健康管理について</p> <p>(7) 大変苦勞を致しました。細心の注意を払ったにもかかわらず、ある学校では、接種後に多くの児童が気分不快を訴えるという事態が発生した学校がありました。幸い翌日には、全員元気に回復したものの、児童保護者には大変な不安を生じさせています。集団接種は大変危険です。特に今の学校現場は、大変忙しくきちんとした予防接種体制の確保は難しい状況があります。健康被害が生じることも現実としてあり、それらを防ぐ意味でも、個別接種の体制を堅持するよう強く要望します。</p> <p>(3) 予防接種被害を防ぐため、副作用・救済制度も含めて正しい情報の提供はぜひお願いしたいと思います。</p> <p>(4) 所得の少ない世帯の負担軽減の拡大を要求します。</p> <p>(7) 予防接種部会委員会に学校関係者も入り協議できるように要望します。</p> <p>・日本脳炎ワクチンについては、現在国内に患者がいらないことから廃止を要望します。</p>	5	1	4
2053		(別紙1に掲載)	5	2	4
2054	(2)	(別紙2に掲載)	5	2	4

番号	項目	内容 (1) 予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2) 予防接種事業の適正な実施の確保、(3) 予防接種に関する情報提供のあり方、(4) 接種費用の負担のあり方、(5) 予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6) ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7) その他	年齢	性別	職業
2055	(2) (3)	(2) ・麻しんの予防接種について 平成20年度～5か年計画で、予防接種が積極的に各自治体で行われております。しかしながら、接種率を上げるために、学校での集団接種を実施しようとしたり、校医さんのところに生徒を引率したりしている現状については実態を把握されて検討いただきたい。 ・新型インフルエンザワクチン接種について 余剰のワクチンが出たことにより、麻しん同様、学校における集団接種を実施、推進した自治体があった。厚労省でも熟知してあるように、1980～1986年群馬県前橋市において調査を行い、ワクチン接種に感染予防はないということが証明され、1987年それ以降学童への集団接種義務化が中止された。今回の各地の動きはそのことから逆行していると思う。効果は100%ではないにも関わらず「自己責任」の名の下で、ワクチン接種を進めようとしている点については適正ではないと思う。 (3) 昨年の新型インフルエンザの発生に伴ってやはり情報提供については問題点が多く、市町村についてはマスコミの情報で判断しなければならない状況下にあった。また、新型インフルエンザワクチンによる副作用についての報道はほとんどなく目にすることはなかった。公表すべきではなかったか？ 逆に海外では早くからウイルスが弱毒性であるという認識が示されていたにも関わらず、国内においてはなかなか周知されず、その上、死亡例の報道だけが先行して結果的にパニックを招いたのではないかと、そのことが人権侵害に拍車をかけているということにつながっていないでしょうか。	4	1	5
2056	(1) (3) (5)	(別紙2に掲載)	4	1	5
2057	(1) (2) (3) (4) (5) (7)	(1) 日本脳炎ワクチンについては、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」が使用可能なワクチンとして承認されたが、日本脳炎のり患者がほとんどいない現在では、予防接種法の対象となる根拠がないのではないかと、積極的勧奨の対象とする必要はない。費用面の負担や健康被害の補償も大切だが、やはり、一人一人がそのワクチンの必要性を感じたときに接種することが望ましい。学校等での集団接種はそぐわない。各自治体の責任において、保護者のもと、医療機関で行えるよう体制を整備するとともに、関係機関に指導すること。 (2) ワクチン接種後の健康被害が生じた場合、早急に救済措置を行うこと。また、定期接種については公費負担し、その他個人負担予防接種についても負担増とならないよう単価設定すること。 (3) ワクチンについての推進論、慎重論の両面から情報提供を行うこと。治験は主にアメリカのデータのようだが、日本の生活環境とは異なっていることも配慮し、比較検討すること。 (4) 予防接種全般を容認しているわけではないが、費用負担については、所得の少ない世帯の負担軽減を拡大すること。 (5) 例えば、インフルエンザ予防接種における前橋データのような客観性のあるデータで、公正に評価検討できる第三者による評価・検討委員会を設けること。 (7) 子宮頸がんワクチンについては、マスコミ等によりワクチンを推奨する報道のみで、慎重論が発信されていない。ワクチン接種とともに性教育を充実させる対策が必須。	4	1	5
2058	(2)	(2) ○予防接種部会の資料等においては、インフルエンザワクチンについて、有効性・安全性について限界があると示しています。また、他のワクチンについても接種後の健康被害が生じる可能性もあることから、安全確保のために集団で学校で実施するのではなく、各自治体の責任において、保護者のもとで医療機関で行えるよう体制を整備するとともに、関係機関に指導することが重要と考えます。 ○文科省は、アレルギー疾患を持つ児童生徒の増加に関わって、個別対応の必要性を出していることから、集団接種では個別の健康状態が把握できないため、一人ひとりに対応した予防接種を求めます。	4	1	5
2059	(3)	昨年の新型インフルエンザ発生時、学校現場は大変混乱しました。その原因のひとつに偏った情報しか伝わってこず、正しい判断ができにくかったという点があげられます。このワクチンはどのような効果がどの程度期待できるか、副作用等の危険性の加味して判断できるような情報提供をお願いします。	4	1	5
2060	(2) (3)	小学校で養護教諭をしています。 予防接種は個別接種が基本と法改正され、現在、学校現場で予防接種を行うことがなく、接種者の安全性を確保するために、当然なことだと思います。かつて、インフルエンザの集団接種で、私が勤務する市において、副反応による取り返しのつかない重篤な後遺症を被った事故があり、先日、当時の養護教諭から、話を聞く機会を得ました。マニュアル通りに接種を進めていった中での事故で、避けられたかもしれないとすれば、期日の決められた集団接種でなければ、本人の体調を考え、保護者は接種日を変更したのに、という事故だったということで、普段は穏やかな方が、「集団接種は反対」と強い口調で、つらい体験を語っていただきました。 麻疹排除計画に基づく時限措置により、中1高3が第3期第4期として接種対象となっていますが、接種率の伸び悩みから、学校を会場とした集団接種が導入されたり、検討される自治体が急増しているようで、勤務地においても、例外ではありません。 学校現場に医療行為である予防接種を集団で行うことは、かつてのインフルエンザの経験を繰り返す危険が大きいといわざるを得ません。いくら慎重にマニュアルを作成しても、不安が消えません。接種体制や救急体制の不備による事故だけでなく、学校という特殊性から保護者や児童生徒に、強制力を与え、無理な接種に、また、体調を深慮することなく安易な接種により、事故につながるという危険性がつきまといます。 したがって、学校現場での集団予防接種は、絶対に反対です。予防接種率の向上を目指すのであれば、個別接種を基本のまま、国や行政の責任のもと、医療機関・行政機関において、接種を希望する者がうけやすい体制(夜間・休日等)を整備してください。 また、予防接種は、接種者自身が判断できるための正しい情報(有益性とリスク)が伝えられていることが前提だと思いますが、副反応などのデメリット面の情報が不十分であり、有効性ばかりが強調されている印象を強くけます。副反応などの危険性とともに救済制度についても幅広く情報提供してください。最近、マスコミで話題となっている子宮頸がんワクチンは、ワクチンを推奨する情報ばかりで、全く情報提供の公平性を欠いており、危険数が未知数ゆえ、不安感が高まります。 予防接種による健康被害の救済制度については、被害者の側にたった措置が行われるよう、より充実したものとなるよう見直してください。予防接種制度の見直しにあたり、ぜひともご考慮いただきたく、要望いたします。	4	1	5

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		(1) 予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2) 予防接種事業の適正な実施の確保、(3) 予防接種に関する情報提供のあり方、(4) 接種費用の負担のあり方、(5) 予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6) ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7) その他			
2061	(1) (2) (3) (7)	(1) インフルエンザワクチンのように、有効性、安全性が疑問視されるものについては予防接種の対象から外して、医療体制の充実、医療費の無料化を検討していただきたい。 (2) これまで、学校における集団予防接種は様々な問題点から行われなくなってきましたが、新型インフルエンザの流行時においては、感染の中心が児童生徒であったため、学校を会場とした予防接種が行われたところもあった模様です。学校での予防接種は環境面からも、児童生徒の健康面からも非常に危険を伴うものと考えられます。今後、同様の場合は、せめて保護者同伴の徹底を図るべきです。 (3) ワクチンの有効性、安全性について「正しい」情報提供が必要です。”絶対に効く”という情報意外流れていないような実態は問題です。 (7) 今後、導入を予定しているワクチンの種類・根拠について知らせていただきたい。	5	1	5
2062	(1) (2) (3) (4)	(別紙2に掲載)	5	1	5
2063	(1) (5)	(1) 予防接種は、その疾病に対して有効性が確実なものを実施すべき。 (5) 効果ははっきりしないもの、また新型と言われるものは、その効果が不明なものについては、定期予防接種として実施することは望ましくないと考える。また、現在発生がない日本脳炎予防接種については実施をみなしてほしい。予防接種が増えるばかりでは、乳児・幼児期の接種計画を立てるのに困難。 学齢期の接種については今まで通り、個別接種で対応するためにも、ワクチンの慎重論・推進論ともに情報を出すようにしてほしい。保護者判断の資料をいろいろな両方の立場から提示してほしい。 (5) 予防接種の効果があつたのか、自然に回復したものなのか、判断がされてないと思われる。前橋レポートの例もあるので、広く調査をして、評価してほしい。また予防接種慎重論の立場の方からも意見を聴くなど検討組織を見直してほしい。	5	1	5
2064	(1) (2) (3) (4) (5) (7)	(別紙1に掲載)	5	1	5
2065	(1) (2) (3) (5)	1. 特に有効性に疑問があるインフルエンザワクチンはやめて欲しい。 2. ほかのワクチンは、安全性を考え各自自治体にて、保護者が医療機関で行える体制を作るべきです。教育現場である学校での集団予防接種は行わないでほしい。教育の場、医療行為を持ち込むべきではない。 3. ワクチンの安全性について正しい情報を提供してほしい 5. 検討組織に学校関係者も入れて現場の声を聞いてほしいです。	5	1	5
2066	(1)	これまで厚労省が公開されている予防接種の議論にはB型肝炎ワクチンがほとんど登場しません。 私は厚労省の肝炎等克服緊急対策研究事業において「B型肝炎の母子感染および水平感染の把握とワクチン戦略の再構築に関する研究」の班員ですが、B型肝炎ワクチンは予防接種法の定期接種対象とされるべきと考えます。 B型肝炎ワクチンは世界の138か国で接種率80%以上の幅広い接種が行われ、効果を挙げています。それらの国々でB型肝炎が大幅に減少したことが報告されています。 また、B型肝炎ウイルスキャリアの減少にも効果を挙げています。 わが国では従来は母子感染防止事業によってB型肝炎ウイルスキャリアは減少してきましたが、近年はアジア各国からの移住者がウイルスを持ち込むようになり、感染源となっています。また、従来の日本のウイルスとは異なる、慢性化しやすいウイルス株がまん延しつつあります。こうした新たな状況について、母子感染防止事業では対応できません。 B型肝炎ワクチンはこのところ議論されている新しいワクチンよりはるかに安価であり、他ワクチンに比べて副反応のほとんどない点もすぐれています。 また、集団予防接種によって感染したとするB型肝炎訴訟が起きていると報道されていますが、そのような感染事例の予防策、また行政訴訟の防止策として、定期予防接種B型肝炎ワクチンを全小児に接種することが望ましいと思われれます。ご検討下さい。	5	2	5
2067	(2)	社会福祉法人はばたき福祉事業団は薬害HIV感染被害者が中心となって設立し、社会福祉法人としてHIV感染者や血友病患者に対する相談事業を行っています。 HIV感染症の治療は薬害HIV訴訟の和解に基づき、ACCやエイズ治療ブロック拠点病院 中核拠点病院、拠点病院の重層構造の中で進められています。HIV/AIDS感染者に対する予防接種は、インフルエンザ、新型インフルエンザ、A型肝炎ワクチン等々医療現場で進められるところもありますが、病院ごとに、また病院の医師ごとに対応が異なり、患者として困惑するのと、相談事業を受けているところで上記のような対応についての相談、また当事業団の見解が求められることがあります。 これまで、予防接種に対する公衆衛生的観点からの見解や推奨が消極的なところがあり、それも長い期間から、医療者の認識や医療機関全体の取り組みが消極的な空気に慣れていたと考えます。事故からの責任追及から責任を回避する方向が強いため、そのような風潮になったのかもしれないが、国の健康についてのリスク管理と責任ある指導性が薄れると、突然の感染症発生などで国全体の混乱から失わなくても良い命が奪われていくことも考えられます。医療の充実はその国の発展にもつながりますので、公衆衛生の視点をやさしくみんなで責任を共有する社会作り に転換することが必要と考えます。予防接種についても予防接種独自の救済法というより予防的医療の救済に関係者の資金も投入しての救済基金を大きく作ることを提案します。 私事ですが、介護する老母には、大田区の補助もあり肺炎球菌に対する予防注射等々、推奨されるものを在宅医療の医師にも話して積極的に行っています。その効果は実感しています。実施する医療者や医療機関、また地域差もなくした予防接種の実施がより身近にできることをお願いしたい。 公費負担についての公費について、支えあう国民の負担として考えるものと思います。	6	2	6

番号	項目	内容 (1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他	年齢	性別	職業
2068	(4)	(4) 子供手当でより、予防接種を無料化した方が簡単だと思います。	3	1	7
2069	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	(別紙2に掲載)	3	1	7
2070	(1)	(別紙1に掲載)	3	1	7
2071		子宮頸ガン、インフルエンザ予防接種について みんなだれでも受けられるようにしてほしい 接種料金が高い 接種時間が決まっている(病院) など接種したいのに接種できない場合があります また病院によって値段が違っているのにも疑問を感じます	3	1	7
2072	(7)	他国で認可され、成果も確認されているものについては、日本でも早急に治験をし、認可していただきたい。 任意接種を定期接種にしていきたい。	4	1	7
2073	(1)	子宮頸がんを予防するワクチンについて意見をさせていただきます。 ワクチンが認可されて半年がたとうとしていますが、費用のことや子宮頸がんの認知度の問題もあり、普及が進んでいないように感じます。 経済的格差によって不利益になる子供がなくなるよう、公費での助成を要望します。 また、なぜこのワクチンが必要なのかを正しく知るために、学校での健康教育を行って欲しいと思います。同時に、母親世代にもワクチンだけでなく検診の必要性を学んで欲しいと思います。 がんになっても生きていける時代になりました。 けれど私は10年以上子宮頸がんの後遺症に苦しみながら生きています。残りの50年をこの体で生きていかなければいけません。 このような思いをする女性が一人でも減るよう、子宮頸がんの現状を知って自分の体を守ることを知って欲しいし、ワクチンの普及を望みます。	4	1	7
2074	(7)	日本の子どもにワクチンを広く使用できる制度を作ってください	5	1	7
2075	(4)	①子宮頸がん予防ワクチンについて 予防できる唯一のがんワクチンが認可されたことを女性としてとても喜んでます。もう私たちの年齢では間に合いませんので、検診をしっかり受けて早期発見で健康を守りたいと思っています。かつて他の病気で入院していたときに、同室の女性がたいそう苦しんで亡くなられたのを見ています。これからの日本の女性にはそんなことにならないよう、すべての女性に接種してほしいと思います。それには、あまりにも費用が高く、しかも任意となりますと、せっかくの予防効果が高いワクチンにもかかわらず、経済的に余裕のある家庭しか受けられないことになってしまいます。すべての女性が安心して受けられますよう、国の定期接種に加えていただきたいと思います。 ②ヒブワクチン・肺炎球菌について 私は地域で子育て支援のボランティアをしています。小さい子どもを持つお母さんと接しています。ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチン(七価ワクチン)も子宮頸がん予防ワクチンと同じく任意接種のため、ヒブワクチンで4回約3万円もの費用が自己負担となり、「受けさせたいけど・・・」の声を聞いています。若い世帯の経済状況は大変です。子どもが安心して育つように、公費による定期接種化を望みます。	5	1	7
2076	(4)	(4) 子宮頸がんワクチンが日本でも認可されて喜んでます。一日も早く全ての女子が受けられるようにして、将来、子宮がんで苦しむことがないように、国の定期接種に加えていただきたいと思います。	6	1	7
2077	(1) (4)	(1)予防医学の観点から予防接種は重要と考えます。病気になる、かかったとしても重症化を避ける、まわりに病気をうつさないためにも必要です。諸外国(先進国)に比べ、日本はワクチン後進国と言われています。副反応について、あらかじめ明示しておけば接種者本人及び保護者は納得してワクチンを接種するだろうし、副反応のリスクが高いと思えば接種を見合せます。もっとより多くのワクチンを導入してほしいです。 (4)2歳と8か月の子どもを育てています。上に書いたように予防医学の観点から、現在任意接種のおたふくかぜ、水ぼうそう、Hib、肺炎球菌ワクチン接種を検討しています。しかし、接種費用が重くのしかかります。任意接種後ではなく、公費負担で接種できるようにしてほしいです。	2	1	8
2078	(4)	ぜひ、今任意の予防接種も公費で受けられるようにしてほしい。未来の日本を担う子供たちに投資することは当然だと思う。子供手当を現金で支給するより予防接種を公費負担でやった方がよっぽど価値あるものになると思う。現実、そのお金を子供のためでなく、親の娯楽費に使ってしまう事もあるし。 危機感を持って、万が一任意予防接種の病気(細菌性髄膜炎とか)にならないようにと注射を受けさせる親もいれば、お金ないからまたあとでいいやとか、任意なんだから別に受けなくても大丈夫と考える親もいると思う。親の考え次第で、子供の人生を左右させてしまうなんて酷だと思う。 子どもには金よりワクチンをお願いします。	2	1	8

番号	項目	内容 (1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他	年齢	性別	職業
2079	(3) (4)	(3) ヒブワクチンの予防接種ができるようになったとき、これが細菌性髄膜炎の予防になることや世界の先進国ではほとんどこのワクチンが定期接種化されていて「過去の病気」になりつつあることなどを知り、大変驚きました。知らないということはおそろしいことです。もっともっと、子供のいる世帯への情報提供が必要だと思います。 (4) 情報をいただけでもワクチン代があまりに高いので、多くのお父さんお母さんは悩んでいます。お金が無くては子供が命を落とすなんてあってはならないことだと思います。もっと公的負担を増やし、個人の負担を軽減してください。	3	1	8
2080	(4)	公費負担になってほしい	3	1	8
2081	(3)	先日たまたま小児科に行った時に、置いてあったパンフレットで肺炎球菌ワクチンとHibワクチンについて学びました。風邪を引かなかつたら小児科に行っていないし、たまたまパンフレットを手にとらなければ、ワクチンについて気づくことはありませんでした。 子供があかちゃんときは、病院や市からの連絡で予防接種についていろいろ教えてもらい予防接種を受けることができました。 任意の予防接種についても、一覧にした冊子などを全員に配ってほしいです。 ホームページなどもあるといいです。 予防接種に気づけば受けてたのに！というのがないよう、告知していただければ幸いです。 どうぞよろしくお願ひいたします。	3	1	8
2082	(1)	全てのワクチン(特にWHOが推薦してるワクチン)を定期接種にして下さい。 Hibと小児用肺炎球菌など。。	3	1	8
2083	(1) (4)	現在日本で入手できるワクチンは、全てを今すぐに任意接種にするべきだと思います。私も子供二人を育てながら働いていますが、伝染病にかかり保育園に行くことが出来なくなると、当たり前ですが仕事を休むことになります。職場にも迷惑がかかりますし、病気になった本人が辛い思いをします。その考えから今現在接種可能なワクチンは任意接種のものを含め、順に接種して行っています。ただ費用を工面するのが大変ななっています。1本1万円近くするものがほとんどで、「病気になった時は乳児医療証を出せばタダだから。」とうたない人もいるのではないかと思います。治療時は助成していただいているのはわかっていますが、予防にも助成して病気を防いだ方が「効率」がいいと思います。大勢でワクチンを接種して病気を蔓延させなければ、何らかの理由でワクチンを打てない子も病気にならずすむと思います。「子供は社会全体で育てる」とよく言われますが、ワクチン接種をすすめるのがいいのではないのでしょうか。 ちなみにワクチンについて調べれば調べるほど先進国の中で遅れているのがわかります。ポリオは市からのお知らせが来て何も考えず経口投与しましたが、他の先進国では不活化ワクチンに切り替えているとか。昔ながらの方法もよいときもあるとは思いますが、医療に関して情報や技術が進歩しているのなら、切り替えていく柔軟性が必要だと思います。また、他の国で長年に渡り認証されているワクチンがまだ日本では接種できないものもあるようです。薬の認証にも時間がかかりすぎるとよく言われていますが、ワクチンについてももう少し、迅速な対応が必要なのではないのでしょうか？	3	1	8
2084	(1) (3) (4)	(1)そもそも予防接種とは何なのかという問いが黒岩委員からでてくるがそれに対する明確な回答がないように感じられる。 (3) 予防接種が「国民の命と健康を守るもの」であるとするならば、インフルエンザワクチンばかりでなく、子宮頸がん予防ワクチン、肺炎球菌ワクチン(大人・子ども)、ヒブワクチン、不活化のポリオワクチンは命と健康に大きく影響するワクチンであるため優先的にあり方を考えねばならないものと思われる。 (4) これまで予防接種に関しては必ずといっていいほどネガティブキャンペーンのような団体が登場し風評被害を招いている。 たとえば自閉症になるとか、高確率で死亡するとか…。 副作用をゼロにはできないだけに安全性の確保も重要ではあるがそれ以上に、保護者や接種する本人がワクチンの必要性をしっかりと把握し、医師と話し合いの末、接種を自ら判断できるような資料を、出産時や必要に応じて提供することが必要なのではないのでしょうか 特に子宮頸がん予防ワクチンなどは中学入学時に配布とか、ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチンは出産時に配布という形であれば保護者も理解しやすいのではないかと。 (4) ワクチンは命や重大な疾患を予防するため、公費で接種できること。済んでいる町などで差があってはいけない。 公費で接種できるようにして、あとは親御さんと本人の判断でもしワクチンを打ちたくなければ打たないという選択があるなら仕方がない。現状では、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチンは高額すぎて、子どもを産んだばかり・中学に入学させたばかりという年代の子どもを持つ親には支払うことが難しい。	3	1	8
2085	(4)	昨年第一子を授かり、予防接種を受けております。任意接種についてもすべて受けるつもりにしてはおりますが、ワクチン予約の状況からどちらも7ヶ月以降の接種になりました。かかりつけ医では、下記の金額でした。 ヒブ 1回 7000円 x 3回 = 21000円 肺炎球菌 1回 9300円 x 3回 = 27900円 1歳をすぎたら、おたふく風邪、みずぼうそうも接種の予定ですが、どれだけ費用がかかるのか…と思います。なぜこんなにお金をかけて受けなければならないのかとも思います。でも、産まれてきた大切な命を予防接種を受けていなかった事で失ってしまったらしたくないと思ひ、なるべく受けようと思ひます。 国としても、少子化対策を考えられていると思ひますが、産まれてきた命を守る方法として、すぐにでも定期、任意の区別をすることなく、もし今後新たな予防接種が認定された場合も、すべての予防接種について無償で接種できるようにして頂きたいと思ひます。国としても、予防接種を受けることで、病気になる子供が減り、健康保険の負担も減るのであれば、メリットもあると思ひます。 また、予防接種については、医療費控除の対象外ですよね。高額医療についての保証はもちろん大事だと思いますが、病気にならないように予防することについては、個人の勝手という事でしょうか。少し論点がずれるかもしれませんが、健康診断の受診やがん検診などの受診など、すべての予防に関する行為についての評価を上げてもらって、予防をもっと推進すべきだと思います。 ご検討をよろしくお願ひいたします。	4	1	8

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		(1) 予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2) 予防接種事業の適正な実施の確保、(3) 予防接種に関する情報提供のあり方、(4) 接種費用の負担のあり方、(5) 予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6) ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7) その他			
2086	(3) (4)	(3) 子宮頸がんワクチンについては、学校をはじめ子供達への性教育と一体にすすめることが不可欠です。自分の身体や性について正しい知識を身につけ学べる情報がほしいです。 (4) 予防効果の高い子宮頸がんワクチンはあまりにも高く大変です。他の自治体では、全額補助で学校の集団接種というかたちで実施されていますが、どこに住んでいてもそうなるように、ぜひ国が費用の負担をしていただきたいと思います。 子宮頸がんワクチンが日本でも認可されて大変喜んでます。一日も早くすべての女子が受けられるよう国の定期接種に加えていただきたいと思います。	6	1	8
2087	(1)	1歳7カ月の子供を持つ母親です。子供を持つまで、全く意識していませんでしたが、予防接種を受けることで、重症化を防げたり予防できる病気が数多くあることを知り、正直驚いています。 子供が保育所に通っていることもあり、肺炎球菌では、この冬とても苦労しました。幸い重症になることはありませんでしたが、もう少し早く発売されていれば、大変な思いをしなくてよかったと思うと悔しい思いです。発売を知り、早速予防接種をしました。 しかし、金額が1万円と高額で、2回接種のため2万円となります。他の任意接種のワクチンも接種するつもりですので、相当の負担となります。幸い、健保より半額の負担がありますので、我が家ではそれほどの負担ではありませんが、お金の都合がつかず接種を諦めざるをえないお宅もあるかと思えます。 現在任意接種のワクチンが定期接種となり、重症化する子供が一人でも減ることを望みます。		1	8
2088	(4)	全ての予防接種について、公費負担してほしい。全額でなくても何割負担などと国で一律に決めてほしい。地域によって補助の金額が異なるのは良くないと思う。金額が高いから、予防接種をしようかどうか迷っている人も多いと思う。子供手当が増えるのはうれしいけれど、各家庭でもらったお金を子供のために使っているかは、親にゆだねられる部分があるので、それよりも、予防接種や健診の無料化に予算を使うべきだと思う。(待機児童の解消などにも)	2	1	9
2089	(1)	なぜ、何十年も日本で自然発生が確認されていないポリオを生ワクチンで続ける必要があるのでしょうか？流行地における生ワクチンの効果は認められていますが、今の日本で生ワクチンを続ける意味は全く無いと思います。厚生労働省は、ワクチン由来の感染者が、毎年数名ながら出ている事実を見てみぬ振りをしているのではありませんか？(この事実を知らない親はたくさんいると思います) また、なぜ海外メーカーの不活化ポリオワクチンを承認しないのでしょうか？海外で多数の実績を残している一流メーカーの不活化ポリオワクチンがあるのに、日本の企業が一から開発するのは、時間と労力の無駄ではありませんか？治験を繰り返し、一般的になるまで一体どれくらいの時間がかかるのでしょうか。その間にも、ワクチン由来のポリオ感染者が出てしまうと思います。 私には9ヶ月の娘がいますが、生ポリオワクチンは接種しません。不活化ポリオを打つ予定です。しかし、不活化ポリオワクチンの認知度は非常に低いです。ポリオは生ワクチン。そういうものだと思って接種している人が多数いると思います。 どうか、国民の命を守るために、不活化ポリオの承認をお願いします。 それと同時に、ヒブ、肺炎球菌ワクチンも定期接種に組み込んでいただきたいです。そして、出来ることならば、日本でも海外同様、数種類の混合ワクチンにして欲しいです。注射の回数は少ない方が、親も子も負担が減ると思います。よろしく願いいたします。	2	1	9
2090		①ヒブワクチンを定期接種にしてほしい。 乳幼児がかかりやすい髄膜炎、後遺症が残る可能性も高い病気なので是非定期接種にしてもらいたいです。 ②ポリオを不活性ワクチンにしてほしい。 稀にポリオの症状が出る可能性があるという危険を知りながらなぜ日本は生ワクチンを使用しているのですか。不活性ワクチンがあるのですからそちらにしてください。	2	1	9
2091	(4)	8か月になる娘がおります。 今度Hibワクチンと肺炎球菌ワクチンを受ける予定ですが、全て接種すると7万円以上かかります。 子供の命には代えられないと思い、主人と相談して接種することにしました。 当初はすぐに第二子がほしいと考えていましたが、子育てには想像以上にお金がかかるので悩んでいます。 日本の少子化を改善するためにもぜひ国で負担していただきたいと思います。	2	1	9
2092	(4)	昨年生まれた子供がいます。 予防接種は積極的に受けていますが、任意接種のワクチンは、なぜあのように高額なのでしょうか。すべて定期接種で公費負担にすれば、病気を予防するという、予防接種の本来の役割を果たせると思えます。 実際、高額だから受けさせたいけど難しいという考えの方もたくさんいます。 諸外国では定期接種になっているのに、日本は遅れているとも思います。WHOの基準に準じて、定期接種を増やしてください。予防接種を受ければ防げるものもたくさんあるのだから、子供たちの未来を考えるのであれば、公費負担の費用は、日本の未来のためでもあると思います。	2	1	9

番号	項目	内容 (1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他	年齢	性別	職業
2093	(1)	<p>肝炎ワクチン予防接種はするべきだと思う。 でもどうせ、国会の人はわからないでしょ？と言いたいです。 肝炎の人がどれだけ苦労して生活しているか。金銭面も。精神面も。 肝炎に限ったことじゃないけど、どうせ人間は自分がその立場にならないと理解できないものでしょう。 どれだけつらい思いをしたかどれだけ日常で差別されるかそんなことしたいしたことないって思われるかもしれないけど、こういう意見があることは大事にさせていただけると幸いです。 家のおばあちゃんが肝炎になったのが始まりかと推測しています。 しかし人を助けるため昔よく献血に助けなくてはいけないといっってよく行っていたと聞いています。 それにより孫の私まで感染。今や自分の子供にワクチンを打っている最中です。子供を授かる少し前に肝炎ということたまたま病院で知りました。 親は問いただしてもしばらく教えてくれませんでした。きっと肝炎と言うと世の中損だとわかっていたからだと思います 肝炎とわかってからは歯医者さんでは閉店間際に来てくださいといわれました。世の中肝炎とわからなくて治療している人がどれだけいることか。どうして申告した人だけがそういう風な扱いになるのかよくわかりません。 妊娠発覚後は個人病院に行ったところ「こないでほしい」「最初からわかっていたら診察しなかった」といわれ、その後一切診察してもらえず、里帰りということもあってどこからもみてもらえずしばらくは妊婦検診できませんでした。地方出身ということもあって、病院がわからずとりあえずおおい病院に手当たりしだいかけましたが見つかりませんでした。 結局、肝炎の先生にしょうかいしてもらい病院に毎回片道1.5時間かけて8ヶ月まで通いました。妊婦だからといって席を譲ってくれることもないのでとても大きいお腹でたったままの電車移動でした。 挙句の果てには検診用の無料券が契約しない病院だったため最初の1枚しか使えずあとは余ったままで自腹。補助されるはずのものが使えないのはおかしい。肝炎に病院もお金も自由も許されないのかと思いました。 なぜ肝炎というだけで平等ではないのでしょうか？これが現実なのです。</p>	2	1	9
2094	(4)	<p>予防接種で病気にかかりにくくなる。又はかかっても軽くなるのであれば、子どもには1日も早くワクチンを打ってあげたいと思う反面、低月齢のうちに受けようすると、3～4回打たなくてはいけなくなり、その度に1万円近い費用がかかるのは経済的に負担も大きく、接種したくてもできない場合もある。副作用についても保護者に理解してもらい、それでも接種を勧めるワクチンであれば、1日も早く公費で受けられるようにしてほしい。(特に、かかると命に関わったり、重症化するような病気のワクチンを最優先にしてほしい。)</p>	3	1	9
2095	(4)	公費にしてほしい。	3	1	9
2096	(4)	<p>現在ヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンなどを自費で払って接種する方法をとっています。ただでさえ少子化が問題となっていたり、子供手当を作り子供がいる家庭を支えようとしている流れの中、ぜひ予防接種の費用は自費ではなく21世紀を担う子供たちの命を考え、公的負担をしてほしいです。特にうちは子供は3人なので、子供の数が多い家庭ほど、負担が大きくなり、ますます産みにくくなりますので、その辺を踏まえ、早期に解決してほしいです。</p>	3	1	9
2097	(4)	<p>任意接種のものについての費用が、かなり高額で、毎年インフルエンザワクチンを接種しておりますが、家計としてかなりの負担になっております。また、ヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンなど、まだまだ接種したいワクチンはたくさんあるのに、金額を聞いて悩んでしまう現状です。病気を予防できるワクチンがたくさん開発されているのに、それができないことに不満を感じています。</p>	3	1	9
2098	(4)	<p>任意と言ってもほとんど全ての注射を受けている人がほとんどなので、ヒブやおたふく、水ぼうそうも公費負担にすべきだと思う。</p>	3	1	9
2099	(4)	<p>生後10ヵ月の子供の母親です。これからHibワクチンと肺炎球菌ワクチンを打つ予定です。Hibは、もっと早いうちに打たないといけなのに、ワクチン不足のため、まだ打っていません。でも、1歳を過ぎると接種回数が減るので、その分費用も少なくて済むので、正直ホッとしている部分もあります。この2種類を必要な回数しっかり打つと、7～8万かかると思うと、2人目の子どもが生まれた時、全部打てるかわかりません。公費で打てるようになり、親の負担が減ると良いです。 予防接種で髄膜炎が減少すれば、子供の高熱で夜間救急などにかかる人も少しは減って、医師の負担軽減にもつながると思います。</p>	3	1	9
2100	(4)	<p>子供の予防接種には任意接種のものが多くあります。病気を防げるものであれば、子供のために受けさせてあげたいという気持ち強いので、任意接種のものも先生がすすめるものは全て受けさせようと思ってます。子を持つ親ならだれでも思う事だと思います。金額が高いので、金額とはいいいませんが、何割かでも公費負担にしていただくと助かります。よろしくお願いします。</p>	3	1	9
2101	(1)	<p>子供の予防接種についてですが、ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチンが高額なので、接種を迷っています。 子供のためには接種したいのですが…。 全額公費とまではいいませんが、少しでも公費で負担を軽くしてほしいです。</p>	3	1	9
2102	(1) (4)	<p>Hibワクチン・肺炎球菌ワクチン・子宮頸がん予防ワクチンを全額公費負担か一部公費負担で接種できるようにしていただきたい。</p>	3	1	9
2103	(1)	<p>髄膜炎予防が必要です。我が国がかなり遅れています。HIBと肺炎球菌ワクチンは定期接種にするべきです。</p>	3	1	9

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
		(1)予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方、(2)予防接種事業の適正な実施の確保、(3)予防接種に関する情報提供のあり方、(4)接種費用の負担のあり方、(5)予防接種に関する評価検討組織のあり方、(6)ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方、(7)その他			
2104	(4)	子供が3人います。先日、小児用肺炎球菌ワクチンを受けました。一人9,000円で、大きな出費でした。今度、一番下の子がヒブワクチンを接種するため、予約をしました。8,000円だそうです。こんなに高くても、子供の命を守るためには生活費を削ってでも、受けさせたいと考えています。また、三人のうち、女の子が二人います。もう少し大きくなったら子宮頸がんの予防接種も、もちろん受けさせるつもりです。毎年、インフルエンザの予防接種も欠かさず家族で受けています。せめて、インフルエンザぐらいの費用だったら、もっと沢山の方が受けられると思います。どうか、よろしくをお願いします。	3	1	9
2105	(1) (3) (4) (7)	(1)Hibワクチンをはじめとして、日本は先進国でありながら世界的に見ても予防接種に関してとても遅れていると思います。 (3)大切な子供の命を守るために、速やかに世界水準に見合った予防接種が受けられるようになることを切に願っています。 (4)大切な子供の命を守るために、速やかに世界水準に見合った予防接種が受けられるようになることを切に願っています。 (7)ワクチンについてもBCGなどを不活化ワクチンで接種できるようにしていただきたいです。 また、せっかく接種できるようになったHibワクチンも現在半年～1年待ちの状態が続いています。0～1歳時に最も予防したいのにこの状態では意味をなさないのでないでしょうか？ もうすぐ子供が生まれる身としては、かなり切実な問題です。早急に改善をお願い致します。女兒の場合、将来妊娠中におたふく風邪など感染すると胎児に障害が生じる感染症に関しては、現在社会の状況から、18歳頃などに再度接種(定期接種として)できるような仕組みもほしいと思っています。 (3)予防接種について正しい知識と、予防接種の必要性・意義についてもっと一般的に知られるように、予防接種のスケジュールなどの冊子に記していただきたいと思います。また、アメリカや他の国家の予防接種についてももっと知ることができたら、予防接種に対する認識も高まるのではないのでしょうか？…日本がどれだけ遅れているかということを知ることもなると思うのですが… (4)大切な子供の命を守るために、できる限りみんなが公平に接種できるように、現在定期接種になっているものだけでなく、任意接種のものも含め、全てを公費で負担していただきたいです。 (7)予防接種で守ることができる大切な命や健康があるのに、そうしないのはナンセンスだと思います。予防できる病気はできるだけ早い段階で、全ての子供たちが平等に、必要な時期にきちんと接種できる体制を一日でも早く整えてほしいです。海外で開発され、広く接種されているワクチンに関しても、できるだけ速やかに日本国内で接種できるように対応していただきたいです。 また、接種できるワクチンは適当な時期に接種することが大切だと思うので、ワクチンの不足がないようにしっかりと見直しと対応を求めます。どの子供も親にとっては宝です。予防接種を待っている間にその病気にかかって方が一子供を失うようなことになっては困るのです。どうかワクチンを接種できるようにしてください。特にHibワクチンについて早急な改善を求めます。 また、昨年の新型インフルエンザのワクチンについてですが、ワクチンを培養する卵が不足していました。予防接種に意識の高い人々だけでも、不足の自体に備えて個人が卵の権利を持つのはどうでしょうか？ たとえば、年間1万円で5個の卵の権利を持つなど。その卵3個から作られたワクチンは権利者が接種でき、残りの2個から作られたワクチンは寄付するように決めておきます。 そうすれば権利者だけでなく、権利を持たない人の分のワクチンも少しでも多く確保できると思うのですが…ご検討の程宜しくお願い致します。	3	1	9
2106	(4)	2児の母親ですが、定期接種同様現在任意接種のワクチンも国の負担で実施願いたい。子ども手当の一部をあてがって如何ですか。	3	1	9
2107	(3) (4)	(3)ポリオの免疫獲得率の低い世代(昭和50年～52年生まれ)に、不活化ワクチンの投与と注意喚起を徹底して下さい。 任意の予防接種は、被接種者およびその保護者の責任と判断に委ねられるが、判断するための情報(年間の接種人数および副作用の発生状況、病気の発症人数、予防接種の有効性など)を広く開示して下さい。 新聞などを見ても、小児科の先生に相談しても情報が入ってきません。 (4)ポリオ生ワクチンの不活化ワクチンへの切り替えを早急に実施して下さい。 免疫獲得率の低い世代(昭和50年～52年生まれ)に、不活化ワクチンの投与を推進し、公費にて助成することを検討して下さい。 ヒブワクチン(インフルエンザ桿菌タイプb)、肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチン、水痘ワクチン、おたふくかぜワクチン、B型肝炎ウイルスワクチンの公費全額負担を早急に実施して下さい。	3	1	9

番号	項目	内容	年齢	性別	職業
2108	(4)	<p>小児肝機能障害早期発見運動(肝ったママ's)の代表・■■です。</p> <p>娘は胆道閉鎖症です。主治医からは、将来移植をしなければいけないかもしれないから、予防接種は打っておくようにと言われ、定期接種はもちろん、任意接種のワクチンも打ちました。費用はかなりかかりましたが、命には変えられません。任意接種のワクチンは、全て打つと費用もかなりかかります。それが理由で打たないお子さんも多いです。予防接種を打つ事は、自分の子供、自分自身を守る為でもあります。自分から蔓延させない意味も持っているはずなのに、費用がかかるからと打たないでいる事は、公衆衛生の点からも良い状況ではありません。娘と同じ疾患で闘っているお子さんの中には、1歳を待たずに移植をする子もいます。その子達は予防接種を打てずに、移植に望み、免疫抑制剤を飲む事になります。常に、流行性の疾患に怯えていなければいけません。打ちたくても打てないお子さんもいるのだから、そういうお子さんを守る為にも、罹らず予防できるものはしていかなければいけないと思います。</p> <p>任意接種ワクチンも定期接種に入れ、費用負担をしなくても良いようにしていただきたく思います。自分の子は大丈夫だと思っている親には、費用を負担してまで予防接種をしません。費用を国が負担し、罹らずに済む、罹っても軽く済めば、罹って重い後遺症に悩む必要がなくなります。重い後遺症を抱えて生きていくお子さんが生涯に渡って国や自治体から受けるサービスの費用と、そのお子さんが罹らず大人になり、納税者になる方が、コストパフォーマンスも高いはずで。</p> <p>全ての予防接種が無料化すれば、予防接種をしなくても出来ない人の命を守ることもできます。</p>	3	1	9
2109	(1) (4)	<p>私は、7ヶ月になる子供がいます。</p> <p>先日、小児科に定期健診に行ったときに任意接種のワクチンの相談を先生にしました。hibと肺炎球菌のワクチンをお子さんに接種させた方がいいと思い、予約してみたが、ワクチン接種にかかる料金にびっくりしました。とても、払うのに苦しいので、泣く泣くキャンセルしました。</p> <p>高額を出しても万が一の為に受けさせる家庭もありますが、なかなか一般家庭には簡単にだせる額ではありません。</p> <p>日本は、新しいワクチンに関して、国の対応が遅すぎます。子宮頸部ワクチンに関してでもです。一部の自治体負担してくれているのをニュースで見ますが、なぜ国レベルでしてあげないのかが私にはわかりません。</p> <p>子供手当でも今年度半額の支給(児童手当の差額の3000円しかプラスではない)ですが、来年は全額支給できそうにないことをニュースとかでよく耳にします。半額のままでは、逆に以前より負担が増えそうなので、それどころなにかかと思っています。全額できないのなら、せめて以前より負担が増えるようになるのだけはやめてほしい。</p> <p>現物支給の案もあるみたいですが、現物支給にするのなら、国民の目に見えない不透明なお金の流れになることだけはやめてほしい。</p> <p>話はそれてしまいましたが、現物支給にするなら、今任意のワクチンを定期接種などにまわしてほしいと思います。13000円×12=156000円も一人あたり浮くのだから、それくらい簡単なことではないかと思っています。</p> <p>もっと、選挙のためでなく、真剣に子育てする環境を整えてほしいです。</p>	3	1	9
2110	(7)	<p>子供が誕生すると、保護者は予防接種のスケジュールを組むことに悩みます。種類は多い、間隔はまちまち、病院で受けるか、集団接種か...。特に集団接種の場合、子供の体調の管理、また同行させなければならない兄弟の体調まで考えなければならないのです。私は、集団接種より、かかりつけ医による接種を望みます。その方が、先生と直接相談し、子供の体調をみながら、欧米のように一度に複数接種してもらうことができ、子供、親の負担が減ると思うからです。また、全額を国で負担して頂ければ、髄膜炎等で死亡する乳児が減り、少子化対策にもなると思います。</p>	4	1	9
2111	(4)	<p>子供が3人いるので自費での接種はたいへんきついです。公費負担を増やしてほしい。こういった意見の募集方法は、幼稚園や病院をとおすなど、もっと広く募集してほしいです。</p>	4	1	9
2112	(4)	<p>私には10歳になる娘がおります。</p> <p>3歳時には細菌性肺炎、5歳時にはマイコプラズマ肺炎にかかり、とくに、細菌性の際には本人もとても辛い思いをしました。</p> <p>いつも傍にいながら、どうしてこう次々と肺炎にかかってしまうのだろうと、親としても思い悩んだことを昨日のこのように覚えてます。</p> <p>まわりでも小さなお子さんが肺炎にかかったことを頻りに耳にします。</p> <p>最近、小児用肺炎球菌ワクチンの認可がおりたことを聞き、大変心強く、このようなワクチンが存在することが、世のお母さん方の常識になってほしいと思います。</p> <p>また高価なものだと思しますので、経済的理由で接種をあきらめざるを得ないことがない様に、全額公費負担で、定期接種のひとつに加えられることを強く願います。</p>	4	1	9
2113	(1)	<p>疾病名:細菌性髄膜炎、子宮頸がん、おたふく風邪、水痘、ポリオ生ワクチン被害について。</p> <p>① 子どもの命にかかわる大変恐ろしい病気である細菌性髄膜炎が予防できるワクチンHib・肺炎球菌ワクチン、また唯一がんを予防できる子宮頸がんワクチンは、それぞれ7万円、5万円と大変高価であり、自治体によっては無料接種や助成が行われているが、私の居住する自治体ではすべて自己負担です。</p> <p>② おたふく風邪・水痘に対するワクチン接種は、あわせて1万円もかかります。</p> <p>子どもたちの命を守るために必要であると認めているからこそ自治体により、ワクチンの無料接種や助成を行っているわけですから、同じ国の中で命の格差が生まれぬ様に、これら全てを定期無料接種としていただきたい。</p> <p>また、こうしている間にも病気に罹患し命を落としてしまう子どもたちがいる訳ですから、すぐにでも人道的対策をとっていただきたいです。</p>	4	1	9
2114	(3) (4)	(別紙1に掲載)	5	1	9